

写

6 消安第2848号
令和6年8月6日

全日本トラック協会 会長 殿

農林水産省消費・安全局長

豚熱の野生いのししでの広域拡大防止対策について（依頼）

日頃から家畜衛生対策の推進について御協力賜り、感謝申し上げます。

さて、本年6月、佐賀県において九州初となる野生いのししでの豚熱陽性事例が確認され、農林水産省では、別紙の農林水産大臣によるメッセージを踏まえた、感染対策の徹底を進めているところです。

今般、県境を越えた豚熱の感染拡大防止対策の強化のため、別添のとおり各都道府県知事宛てに、九州における豚熱の野生いのししでの広域拡大防止対策について通知を発出しました。

つきましては、豚熱の感染が確認されていない都道府県（北海道、千葉県、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）への移動に際しては、特に洗車を励行していただきますよう、貴会会員への周知方よろしくお願い申し上げます。

大臣メッセージ

- 今般、佐賀県唐津市において、豚熱の感染が確認されました。九州の野生いのししでは初めての感染確認となります。
- 我が国の豚八百九十五万頭の約三分の一（二百八十万頭）を占める養豚主産地である九州において、豚熱の感染拡大のリスクが、かつてないほど高まっています。
- そこで、「ストップ豚熱」。地域の大事な養豚業を守るため、生産者をはじめとした養豚業に携わる関係者と県、市町村などの行政関係者の皆様が、一体となってこの危機感を共有し、防疫対策に取り組むことが必要です。
- まずは、地域での「ストップ豚熱」です。野生いのししの感染拡大を防ぐため、経口ワクチンの散布を進めます。野生いのししにおける感染拡大を防ぎ、九州の養豚業を守るため、農林水産省としては、専門家の議論も踏まえ、佐賀県で豚熱の経口ワクチン散布を行うことを可能といたします。佐賀県と連携して、迅速かつ重点的に、ワクチン散布を行ってまいります。
- 次に、野生いのししのサーベイランスと捕獲を進めます。野生いのししにおける豚熱の発生状況を正確に把握するために、九州全県で、野生いのししのサーベイランスを強化・徹底します。また、野生いのししにおける感染をこれ以上広げないため、九州全県で、野生いのししの捕獲の強化にも取り組みます。特に、佐賀県では、発生が確認された地域において、重点的に取組を進めます。
- そして、農場段階での「ストップ豚熱」です。豚熱の発生予防対策としては、適時・適切な飼養豚へのワクチン接種が必要ですが、ワクチンだけに頼ることなく、飼養衛生管理を徹底することが重要です。生産者の皆様におかれては、日頃の消毒はできているか、野生動物の侵入はないか等、農場にウイルスを持ち込ませないよう、飼養衛生管理を再点検し、管理の徹底を図るとともに、家畜の異状を確認した場合の早期通報の徹底を行うようお願いいたします。
- 農林水産省は、九州の養豚業を豚熱から守り、生産者の皆様の御不安を払拭することができるよう、九州各県の皆様と一体となって、豚熱のまん延防止に全力で取り組んでまいります。

令和六年六月七日 農林水産大臣 坂本 哲志

6 消安第2848号
令和6年8月6日

都道府県知事 殿

農林水産省消費・安全局長

豚熱の野生いのししでの広域拡大防止対策等について（依頼）

日頃から家畜衛生対策の推進について御協力賜り、感謝申し上げます。

野生いのししでの豚熱感染の増加については、環境中の豚熱ウイルス濃度を高め、周辺の飼養豚での豚熱感染リスクを増大させると考えられます。

特に、新たに感染が拡大した地域では、豚熱の免疫を有していない野生いのししの中で急激に感染個体数が増加し、飼養豚での豚熱発生リスクが高くなると考えられます。

また、野生いのししの豚熱感染については、地域が徐々に拡大する場合だけでなく、離れた地域で孤発的に感染が発生する場合もあり、これは豚熱ウイルスが野生いのしし間で直接感染するだけでなく、人や物を介して運搬され、感染することによると考えられます。

本年6月、佐賀県において九州初となる野生いのししでの豚熱陽性事例が確認されました。この事例は、野生いのししでの感染が見られない地域での発生であったため、野生いのししでの感染拡大とともに、飼養豚での発生リスクが高くなることが懸念されます。

こうした九州をはじめとする野生いのししの感染状況が急速に悪化している地域における感染拡大リスクを低下させる取組は極めて重要です。このため、各都道府県では、県境を越えて感染地域が拡大していくことを防止するため、下記の対策について関係者へ周知徹底いただきますよう、御協力をよろしくお願いいたします。

また、併せて、野生いのししの感染率の上昇が見られる地域等の農場に対して、飼養衛生管理基準遵守の再徹底について、指導方よろしく願います。

記

- 1 運送や工事等を行う事業者に対する洗車等の励行
 - ・野生いのししが生息する山林内で活動する従業員等に対して、衛生対策の実施について改めて周知徹底を行うこと。
 - ・特に豚熱の感染が確認されている地域から感染が確認されていない地域に移

動する（感染が確認されている地域を経由する場合を含む）際には、車両の洗淨・消毒の実施を励行すること。

2 狩猟・捕獲等に当たっての豚熱対策の再徹底及び今年度の県外狩猟の自粛の要請

- ・狩猟や捕獲等は、野生いのししとの接触を意図的に行う活動であり、豚熱ウイルスの感染拡大リスクが高いものと考えられる。このため、今年度の狩猟期の開始に当たって、狩猟者に対して、別添2の資料等を活用し、衛生対策の実施について改めて周知徹底を行うこと。
- ・特に居住県以外での狩猟（以下「県外狩猟」という。）については、遠隔地への感染拡大リスクを高める可能性がある。このため、少なくとも今年度の狩猟期においては、九州各県、特に佐賀県へ来訪する県外狩猟を自粛することについて、猟友会等の団体又は狩猟者に対して協力を要請すること。

3 野生いのししの感染率の上昇がみられる地域等の農場に対する飼養衛生管理基準遵守の再徹底

野生いのししにおけるサーベイランスの結果を踏まえ、特に野生いのししでの豚熱感染率の上昇がみられる地域やその周辺地域の養豚場に対して、防護柵の維持管理やゲート開閉の管理等の野生動物の侵入防止対策を含む飼養衛生管理基準の遵守について再徹底すること。

物品に関する事項

19

海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置

19 海外で使用した衣服等を衛生管理区域に持ち込む際の措置

この間従業員が海外旅行に行っただって話していたよね。その人は旅行で使った衣類や靴で農場に来ていないよね？

え？ あまり見てなかったな。

農場では着替えるし。靴は汚れていたら掃除するけど、普通の人と変わらない感覚じゃないかな。

帰国後1週間は衛生管理区域内に入らないのはもちろんのこと、病原体を

持ち込むリスクを避けるために、

過去4ヶ月以内に海外で使用した衣服や

靴を衛生管理区域内に持ち込んじや

いけないんだよ。どうしても持ち込む

場合は、衣服や靴を事前に

洗浄、消毒しておく必要があるからね。



豚熱ウイルス (CSFウイルス)	対象物	環境状況	生残期間
		50℃	3日
		37℃	7~15日
	腐敗した臓器		3~4日
	腐敗した血液・骨髄		15日
	汚染した豚房	冬	28日

OIE Disease cardより転載

アフリカ豚熱 ウイルス (ASFウイルス)	対象物	環境状況	生残期間
	糞尿	室温	11日
	燻製肉(骨なし)		30日
	汚染した豚房		30日
	精肉および挽肉		105日
	腐敗した血液		105日
	冷凍肉	冷凍	110日

欧州食品安全庁ジャーナル(2010)より転載

口蹄疫ウイルス (FMDウイルス)	対象物	環境状況	生残期間
	豚肉	1~7℃	1日
	牛肉	4℃	3日
	堆肥(牛)	夏	7日
	敷料(ワラ等)		28日
	衣服、靴	夏	63日
	牛肉	-20℃	90日
衣服、靴	冬	98日	

農研機構 動物衛生研究部門HPより転載

環境中のウイルスの残存期間

経口ワクチンの野外散布

① 経口ワクチンとは

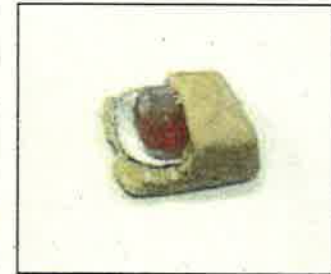
豚熱経口ワクチンは、トウモロコシなどを材料としたシチューの固形ルー状の餌の中に、豚熱ワクチンを封入したもので、野生イノシシが食べることによって、豚熱ウイルスに対する免疫を獲得させ、豚熱の感染を抑制するものです。

豚熱経口生ワクチン

製造：ドイツ

主成分：弱毒豚熱ウイルスC株

- ・欧州での十年以上の散布実績
- ・食品安全委員会でワクチンを摂取したイノシシ肉の安全性評価済み



② 経口ワクチン散布方法（緊急）

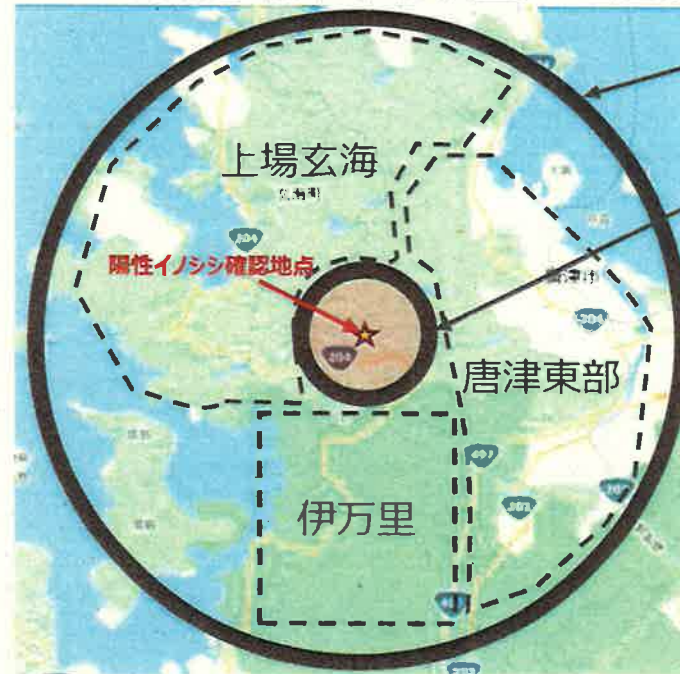
①穴は掘らずに地表に豚熱経口ワクチンを置く

②その上に計量スコップ1杯分の誘引エサ（圧ペン トウモロコシ）を被せるように撒く

※地表に露出させることでイノシシの視認性も高まる
良い条件の場所は1m程度離して2か所に散布



③ 緊急散布計画（1回目：6/13、6/14）



陽性イノシシ確認地点
から半径10km圏

陽性イノシシ確認地点
から半径2km圏
(最重点散布)

散布従事者

- ・県猟友会
 - ・佐賀県
 - ・唐津市
 - ・伊万里市
 - ・玄海町
 - ・国（農水省）
 - ・農研機構
- (2日間延べ約30名)

感染区域半径2kmを最重点散布（2日間で1,000個）
唐津東部：200個、伊万里：200個、上場玄海：200個
計1,600個散布（4週間後に再度散布を実施）

車両の消毒の方法

- ・実施場所：衛生管理区域出入口
- ・実施頻度：入退場ごと
- ・消毒薬の種類(希釈倍率)：【記載】逆性石けん500倍等
- ・次の手順で消毒し、記録する。
(なお、消毒場所の看板にも消毒手順を掲示。)



①車全体を消毒する。



ボディを消毒した後
タイヤハウスとタイヤを入念に消毒

②タイヤ周りも念入りに消毒する。



フロアマットやペダルは入念に消毒

③乗降ステップやペダルを消毒する。



ハンドル・シフト・スイッチ類など
身体が触れる場所は
消毒液を含ませた布などで消毒

④ハンドル回りも消毒する。



⑤車両から落とした泥や汚れは
側溝へ洗い流す。